

恋 (1971)

THE GO-BETWEEN

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマン스

製作国 イギリス

色彩 Color

時間 116分

初公開日 1972/02/11

公開情報 C O L

【解説】

“過去は異邦に等しい”という独白と共に、美しいイングランドの田園風景が広がり、M・ルグランの不安な、しかし甘い旋律が流れる、ロージーらしく感傷の中にもホロ苦さがほとばしる思春期映画の傑作。L・P・ハートレイの小説『恋を覗く少年』を、ロージーとは名コンビの劇作家ピンターが脚本化。彼特有の凝った回想スタイルが混乱を来す面もあるが、ロージー演出は、階級を越えて愛し合う男女の連絡係となる少年の性の目覚めを、流麗に見えて、その実しっかりした筆づかいで、情緒豊かに運んでいく。友人マーカスの一家が夏を過ごす荘園の別宅に招かれた少年レオは彼らの豪壮な暮らしぶりに驚く。12歳でそろそろ異性を意識し始めている彼は、一家の長姉マリアン（クリスティ）に淡い恋心を抱く。その夏は暑く、彼女に夏服を買ってもらったレオはすっかり舞い上がって、買い物を抜け出して彼女が消えた時間に何の疑いも抱かなかったが、彼女は小作人のテッド（ベイツ）に秘かに逢っていたのである。レオはマリアンにテッドの手紙の渡し役を頼まれ、テッドとも友情を育んでいく。マリアンには、ポーア戦争で頬に刀傷を負った子爵の婚約者ヒューがいた。彼もまたレオには優しく、教養豊かなよき友人だった。しかし、彼らの間を行き来するうち、レオは些細な罪悪感を覚え始めた。テッドが馬のお産の後、口にした“いい事”とはいったい何だろう。キスでないのは確かなのだが……。少年はまだあまりにも無垢だった。13歳の誕生日をこの家で祝ってもらうまでは……。クリスティが輝くばかりに艶やかで、レオ役のD・ガード少年も繊細で新鮮な演技を見せ、すばらしい。

【クレジット】

監督	ジョセフ・ロージー	Joseph Losey
製作	ジョン・ヘイマン	John Heyman
原作	L・P・ハートレイ	L.P. Hartley
脚本	ハロルド・ピンター	Harold Pinter
撮影	ジェリー・フィッシャー	Gerry Fisher
音楽	ミシェル・ルグラン	Michel Legrand
出演	ジュリー・クリスティ	Julie Christie
	アラン・ベイツ	Alan Bates
	ドミニク・ガード	Dominic Guard
	マイケル・レッドグレーヴ	Michael Redgrave
	マーガレット・レイトン	Margaret Leighton
	エドワード・フォックス	Edward Fox
	マイケル・ガフ	Michael Gough